

かみきた楽農通信

第59号
令和4年2月17日発行

上北地域県民局 地域農林水産部

○ 農業普及振興室
青森県十和田市西十二番町20-12
TEL : 0176-23-4281
FAX : 0176-25-7242

○ 農業普及振興室三沢分室
青森県三沢市東岡三沢1-1-7
TEL : 0176-53-2498
FAX : 0176-53-8539



ホームページ

上北農業普及振興室 で検索



ごあいさつ「新年を迎えて」

** 農業普及振興室長 加藤 寿男 **

昨年を振り返りますと、水稻は作況指数が「100」の平年並みでしたが概算金が大幅に下落し、野菜の販売価格も安値基調で推移するなど、農業者にとっては厳しい年でありました。

また、8月の大雨や年末の大雪で被害に遭われました農業者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

今年も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に加え、水田活用の直接支払交付金の要件が見直しされるなど厳しい農業情勢が続きますが、引き続き安全・安心で高品質な農産物の生産や若手農業者の育成等上北地域の農業振興に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



令和3年度「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門大賞受賞 ～ (有) ナチュラルファーム (おいらせ町) ～

(有) ナチュラルファームは、有機JAS及び特別栽培農産物の生産など環境への負荷をできる限り低減した生産方式と大規模経営を両立し、収益性の高い農業経営を実現しています。

経営面積は75haを超え、有機にんじんのほか、特別栽培農産物のにんじんとごぼうを生産し、有機農産物等の販路を持つ卸売業者を通して販売を行っています。また、GLOBAL G.A.P.認証を活用して労働環境整備や東南アジアへの輸出にも取り組んでおり、これらの取組が高く評価され、「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門で大賞を受賞しました。



経営者の山本夫妻



玉カルチによるにんじんの除草作業と土寄せ

第41回「田中稔賞」受賞 ～ 農事組合法人「フラップめぐり北三沢」(三沢市) ～

田中稔稲作顕彰会では、昭和56年から稲作に顕著な業績をあげた農業者等を表彰しており、今年度は三沢市の農事組合法人「フラップめぐり北三沢」が「田中稔賞」を受賞しました。

同法人は、平成23年に仏沼湿地に隣接する耕作放棄地の解消と、同地区における営農の継続を目的として設立され、現在、約100haの水田を耕作しています。

この度の受賞は、「ヤマセ常襲地帯における飼料用稲の乾田直播栽培体系の確立」、「周辺環境に配慮した大区画水田の整備による耕作放棄地の再生」、「耕畜連携による地域循環型農業の取組」といった業績が高く評価されたものです。



記念写真



川嶋副代表理事による業績発表

新たな土づくりの匠の紹介

青森県では、高度な土づくりをリードし、県内生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を「あおり土づくりの匠」として認定しています。令和3年度は、七戸町の中岫均氏が認定されました。これまで、上北管内で認定された土づくりの匠は26名となります。



中岫 均 氏

- ①栽培品目：水稻、ながいも、にんにく、アピオス
- ②活動の内容

土壌診断による適正施肥、堆肥や有機質を含む肥料を活用した化学肥料の削減及び適期防除による農薬の削減を行い、10年以上前から特別栽培農産物の栽培に取り組んでおり、健康な土づくりを基本とした環境に優しい農業を実践しています。

米価下落に関する特別相談窓口の設置について

農業普及振興室では、令和3年産米の概算金引下げに伴う当面の資金繰りや来年の作付計画の見直しなど生産者からの経営相談に対応するため、令和3年10月5日に「米価下落に関する特別相談窓口」を設置しました。

また、農業普及振興室に設置する常設の相談窓口に加え、11月と12月を強化月間として各市町村と連携した移動相談会を開催したほか、集落営農組織を巡回して経営相談を実施しました。相談件数は、1月末現在で93件となっています。

「米価下落に関する特別相談窓口」では随時相談を受け付けておりますので、相談のある方は農業普及振興室へご連絡ください。

令和3年度における農業普及振興室の主な活動

スマート農機の普及拡大に向けた活動

上北地域は県内トップクラスの露地野菜産地ですが、農業就業人口の急激な減少や高齢化等により、労働力不足が深刻化しています。そこで農業普及振興室では、労働力不足への対応策の1つとして効果が期待できる自動操舵トラクタを中心としたスマート農機の普及拡大を進めています。

今年度は、農業者、農機メーカー、関係機関等で構成する「スマート農機普及推進研究会」設置により情報共有を図ったほか、具体的な取組を検討し、「スマート農機普及推進方策」を策定しました。また、女性農業者や若手農業者を対象とし、自動操舵トラクタを活用した各種作業の仕方について理解してもらうための研修会を開催しました。



研究会の開催



自動操舵トラクタ活用研修会

転作大豆の安定生産と省力技術導入に向けた活動

農業普及振興室では転作大豆の安定生産と省力技術の導入による収益性の向上を目指し、経営体ごとに減収の原因を明らかにするための大豆栽培技術改善策整理表を作成するよう支援しました。

作成した整理表を基に減収の原因を分析し、経営体の経営条件に合わせて「できることから取り組む技術改善」を指導したところ、病害虫防除薬剤や肥料の変更、作業時期の見直し等が行われ、収量の向上につながりました。

さらに、整理表を作成した経営体に対しては、近年全国的に発生が広がっているダイズシストセンチュウの感染状況を調査し、感染予防対策や防除対策について指導しました。このほか、土壌分析結果に基づく適正施肥の指導や、省力化技術の実証ほの活用、現地検討会の開催により、大豆の高品質安定生産と作業の省力・効率化の両立に向けて取り組んでいます。



整理表に基づく技術改善指導



土づくり実証ほ

にんじんのこぶ病のまん延防止に向けた活動

J A十和田おいらせももいし支店管内では、収穫したにんじんに「こぶ症状」が発生し、原因がわからないまま、年々、被害が広がっている状況でした。このため、農業普及振興室ではJ Aと協力して、こぶ症状のサンプル収集とほ場の栽培状況を調査し、発生原因の解明を（地独）青森県産業技術センター野菜研究所（以下、野菜研究所）へ依頼しました。

野菜研究所において分析した結果、「こぶ症状」の原因は、主に土壌細菌を病原菌とする「こぶ病」であることが判明しました。

その後、野菜研究所やJ Aと協力し、「こぶ病」の防除薬剤の使用や作業機械を作業後に洗浄すること等の防除対策について、講習会やJ Aを通じて生産者へ周知し、「こぶ病」のまん延防止に努めています。



現地で発生した「こぶ症状」

作業後は機械の土を洗い流しましょう！



専用機械によるにんじんの収穫作業

「共助・共存の農山漁村づくり」に向けた活動

県では、共助・共存の農山漁村づくりに向けたモデル集落を選定し、地域の課題解決に向けた支援を行っており、当管内では昨年度から十和田市一本松集落をモデル集落に選定し、取組を支援しています。

今年度、当集落では交流人口拡大に向けた地域イベントとして「ゴニンカン大会」を開催しました。また、地域全体での見守り活動を兼ねた高齢者サロンの常設化と、地域の誰もが食事を通じて集える食堂の開設を目指して手続きを進めたほか、そのための資金確保のための彼岸だんご販売に取り組みました。



彼岸だんごパッケージ



ゴニンカン大会

農福連携の取組拡大に向けた活動

農業普及振興室では、農業分野における障がい者の就業機会の拡大に向け、農福連携の取組を推進しています。

今年度は、十和田市の(株)グリーンソウルにおいて農業法人と福祉関係者を対象に農業法人における障がい者雇用の研修会を開催しました。障がい者によるだいの調製作業を見学し、その後、参加者で意見交換を行いました。

また、障がい者の農作業能力向上のため、十和田市の甲田ファーマで福祉事業所利用者を対象としたごぼうの出荷調製作業の実習を行ったところ、延べ58名が参加しました。

今後も、障がい者の雇用に係る窓口の設置等により農業と福祉のマッチングを促進し、関係機関と連携を図りながら農福連携の取組を推進していきます。



障がい者の作業を見学